

八戸市の環境施策について ～環境先進都市を目指して～

八戸市環境部環境政策課 秋山直仁

1 八戸市の環境の現状

当市は、平成 11 年の八戸市議会の「環境共生都市宣言」の精神を踏まえ、これまで ISO14001 の認証取得など、環境にやさしい都市の実現に向けて取り組んできた。

さらに、当地域は、平成 14 年に「あおりエコタウン」、平成 15 年には「八戸港リサイクルポート」、「環境・エネルギー産業創造特区」に相次いで指定され、循環型社会を目指す上で、重要な事業や研究が行われており、全国から注目されている。また、従来の自然保護や環境美化活動を行う市民団体に加え、循環型社会の構築を目指す市民活動も盛んに行われているなど、市全体で環境にやさしいまちを目指そうという機運が高まっている。

2 「環境基本条例」の制定、「環境基本計画」の策定

こうした環境に関する機運の高まりを受け、将来の市民に海・山・川といった豊かな自然環境を継承し、かつ、環境負荷の低減と経済的発展が両立した持続可能な社会を構築するために、平成 16 年 12 月に、市の環境政策の基本理念を定めた八戸市環境基本条例を制定した。条例では、市、事業者、市民が一体となって、人と自然が共生し、環境への負荷の少ない持続的に発展することができる環境先進都市をつくりあげてことを宣言している。さらに環境行政を推進する上での基本理念として「良好な地域環境の確保と将来の世代への継承」、「人と自然との共生が確保された都市の実現」、「市、事業者及び市民の協働による持続的発展が可能な社会の構築」、「地球環境の保全の積極的な推進」の 4 つを掲げている。

平成 17 年 2 月には、環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するために「八戸市環境基本計画」を策定した。計画では、市の環境における目標を、「人と自然と地球にやさしい環境先進都市 八戸」とし、持続可能な循環型都市の構築を根幹に、「健康で安心できる生活環境」、「人と自然環境との共生」、「潤いと安らぎが感じられる都市環境」、「地球環境の保全」の 4 つの基本目標を設定し、目標毎に市の行動、事業者及び市民の行動指針を定めている。

3 環境先進都市を目指して

(1) 環境と経済の両立

環境先進都市を実現するためには、経済的発展と環境負荷の低減という、これまで相反するものと考えられていたものの両立が不可欠である。環境と経済の両立のため、当市の既存産業の技術を活かした循環型産業の振興及び循環型産業による地域雇用の拡大に取り組んでいく必要がある。

そのためには、市民のリサイクル意識の向上や産学連携の支援に積極的な市、循環型商品やサービスの製造・提供に積極的な事業者、資源物収集への協力や循環型商品の購入に積極的な市民が必要で、さらには、循環型商品の基礎となる技術開発に積極的な高等教育機関、各主体間の連携に寄与する NPO 等も含めた、市、事業者、市民（市民団体）、高等教育機関が連係を図り、さらには、各主体間の連携から「協働」へと発展させ、自らの役割以外も積極的に関与・取り組んでいく活動が必要である。

(2) 先進的プロジェクトの推進

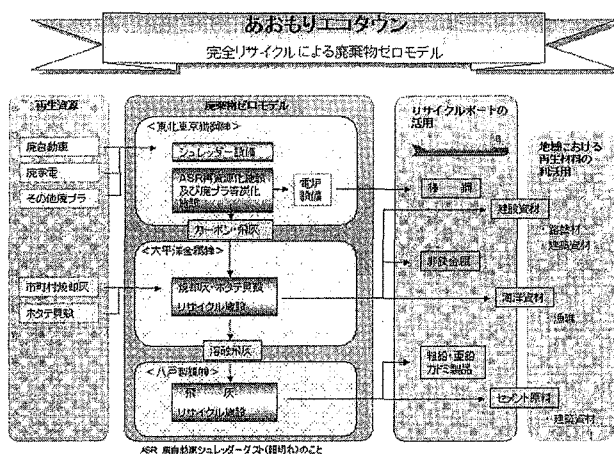
現在、八戸地域では、環境先進都市の実現に向けたいくつかのプロジェクトが具体化しているほか、構想段階のプロジェクトや潜在的なアイデアもあることから、こうしたプロジェクトや潜在的なアイデアの具体化を促進していく。

《現在展開中の主なプロジェクト》

【あおもりエコタウンプラン】

市の臨海工業地帯にある大平洋金属㈱、東北東京鉄鋼㈱、八戸製鉄㈱の3社では、家庭から出るごみや自動車、家電等の廃棄物を受け入れて資源に再生するという最終処分場の要らないゼロエミッションシステムの構築をめざしている。

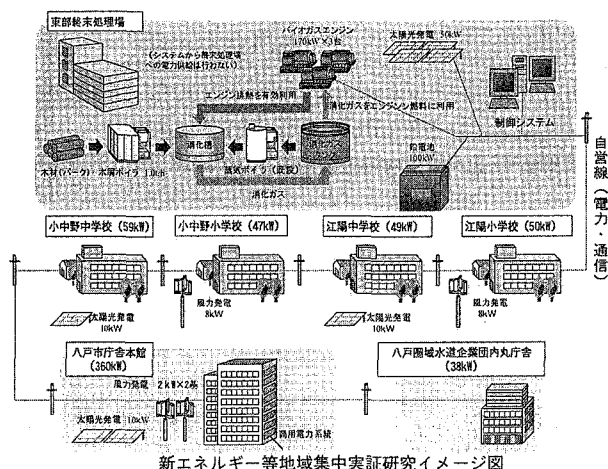
主な事業としては、県内全域から生じる一般廃棄物焼却灰等に、廃棄物であるホタテ貝殻を混合溶融し、魚礁や人工砂利等を製造する「焼却灰・ホタテ貝殻リサイクル事業」、溶融処理等で排出される飛灰から、鉛、亜鉛、カドミウム等の金属を回収する「飛灰リサイクル事業」があり、こうした事業により、従来埋め立てられていた焼却灰や飛灰を再利用できるものである。



【八戸市新エネルギー等地域集中実証研究】

新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）から委託を受け、平成15年度から5年間の新エネルギーを利用した実証研究に着手している。これは、青森県環境・エネルギー産業創造特区の認定による全国初の新エネルギー供給の実証研究事業で、地域再生計画の支援措置も活用しながら進めるものである。

電力・熱の供給者、需要者を情報通信網で連絡し、需要量の変動に対応し、一定品質の電力供給ができるよう需給制御・調整する「マイクログリッド」と呼ばれる方式の実証研究であり、実需要によるマイクログリッドの実証は世界初の試みである。



具体的には、下水終末処理場から発生するバイオガスを燃料とし、ガスエンジンによる熱電併給を行うとともに、太陽光発電、風力発電等の自然エネルギー設備を設置し、自営線により八戸市庁舎、近隣の小・中学校及び一部事務組合施設（八戸圏域水道企業団）に電力を供給するもので、上水を供給している水道企業団に、流末の下水汚泥などをエネルギー源として電気を供給することから、「八戸市 水の流れを電気で返すプロジェクト」と名付けている。

このほか、洋上風力発電の事業可能性を探るため、八戸地域洋上風力発電研究会を設立し、詳細な検討・調査を行っているほか、自然エネルギーの導入促進と新たな地域まちづくりを構築する「マイクログリッド」システムを活用した「市民エネルギー会社」の設立に向けた協議会が、民間主導で組織されるなど、構想段階のプロジェクトも具体化に向けて進展しており、当市の産学官民が一体となって環境先進都市の実現に向けて取り組みを続けている。